

平成30年度 事業計画書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

公益財団法人 克 念 社

1. 人材の養成に関する育英事業(公益目的事業1)

この育英事業は、創立以来、現在まで継続している克念社の中心的な事業である。
累計で貸費生総数は1,242名。

(1) 平成30年度新規貸費生と貸費学資金について

平成30年度の応募者数は現貸費生で大学院に進学する1名を含み、合計17名。
平成29年11月29日に貸費生選考委員会を開き、応募者全員を希望額通り内定することとした。結果、新規採択者は、16名(月額4万円12名・同2万5千円4名)を予定しており、継続者46名で計62名。

この貸費学資金は、金2,670万円となる。

(内訳)	新規採択者	年30万×4名=	1,200,000円
		年48万×12名=	5,760,000円
	継続者	年30万×13名=	3,900,000円
		年48万×33名=	<u>15,840,000円</u>
	合計	62名	26,700,000円

(2) 平成30年度若葉奨学基金給付生について

風間若葉様からの遺贈を特定資産とし、これを原資として給付型の奨学金を創設して、2年目の募集を行った。平成30年度に応募者は12名(うち貸費生との併願は3名)。貸費生選考委員会に引き続き、給付生選考委員会を開き2名を選考した。継続者は2名で、計4名。来年度の給付金額は、金96万円となる。

(3) 平成30年度貸費資金入金見込額について

当年度の貸費資金入金見込額は2,300万円の予定である。

2. 文化財の維持・管理および公開事業(公益目的事業2)

(1) 重要文化財「丙申堂」と登録有形文化財「無量光苑釈迦堂」の維持・管理および公開にあたっては内容の充実に努め、二つの文化財をセットとして有機的に結び付け、相乗効果を目指す。

(2) 「丙申堂」と「無量光苑釈迦堂」の文化財が日本遺産「サムライゆかりのシルク」の構成文化財となっており、平成30年度も関連の事業が実施される予定である。これを機に情報発信や観光客にわかりやすい案内などの整備に努め、入館者の増加につなげたい。

(3) イベント、企画展示について

・7月7日(土)～10日(火)に丙申堂及び無量光苑釈迦堂にて、庄内刺し子の展示

を開催予定。

これは、ワールド絞りネットワークが主催する「第11回国際絞り会議 in Japan」の一環で開催予定のもので、参加国は20か国、海外からの来館者が100名を超えることが予想されている。丙申堂・釈迦堂にとって海外からの来館者、いわゆるインバウンドの第一歩としてこの機会をとらえ、対応していきたい。

3. 山林を活用した地球環境保全事業(公益目的事業3)

(1) 豊かな自然を持つ里山に親しみながら、山林を愛する心を育むと共に、森林を保全するために必要な山の仕事に対する理解を深めることを目的とし、親子で参加する森林体験学習会を春と秋の2回開催する。実施にあたっては、NPO法人「公益のふるさと創り鶴岡」と連携する。

(2) 山林の整備は例年同様、外部に委託し、管理費としては従来の実績を踏まえつつ、山林整備に努める。

4. 土地、建物の貸与事業(収益事業)

(1) 基本財産の土地は、(株)庄交コーポレーション等に賃貸している。また、運用財産の内、本町1丁目の土地・建物は、(株)NHK文化センターに賃貸している。来年度も継続予定で、安定した賃貸収入により公益目的事業の遂行を図る。

(2) 日本仏教研究のため、東京大学文学部印度哲学仏教学研究室に対し例年行っている助成、及び日本仏教史研究講座、特に聖徳太子講座開設等の運用資金として、公益財団法人中村元東方研究所に対する助成については、30年度も収益事業の中で継続する。

以 上